屢々演說中止を喰った

製鐵所罷工記念會

警視廳も知らぬ間に

大杉氏の勞働運動社員參列

八幡市[illegible]日本勞友會は五日午後七時より同市通町十二丁目有樂館で製鐵所大同罷工三周年記念演說會を開いた開會間もなく一千二百名の入場者に達し滿員となり入場を拒まれて窓から飛込む者もあつた先づ西田健太郎氏は二十分間勞働者の團結を說き次に淺原氏登壇今日勞働問題を解決するには議會政治では手緩いから須らく勞働者は一致團結して直接行動を取るべしと述べるや小島八幡署長は直に演說中止を命じた續いて淺原勞友會長は安田善次郎刺殺を引出し翁が朝日平吾に手を合せて頼んだ時は未だ生きんがための觀念より外になかつたと云ふや聽衆の中から遣う遣うと叫ぶ場内騷ぎ立ち數人演壇へ飛上り立會演說を申込む等したため論旨不徹底の裡に降壇するとそれから續々社會主義者が登壇し何れも不穩の言を吐いて中止され大杉榮氏は自分は數年前此地を通過した際一日でも製鐵所の煙を止め得たならば死んでもよいと思ふて居たが其後入獄當時大同罷工のため數日間煙が出なかつた事を聞いて痛快の餘り寒さを忘れた位である然るに今夜其罷工の記念演說會に斯く多數の入場を見たのは何製鐵所の煙を絕ち得る證據であると云つて之も亦演說を中止された斯て淺原氏以後場内は蜂の巢の如く騷ぎ出で滅茶々々に破壞されて九時半閉會した同日出席した大杉榮岩佐作太郎近藤憲二渡邊滿三和田久太郎等の勞働運動社員が西下した事は東京警視廳も知らなかつた

大杉氏 切符改めを拒む

見せると巡査が行先を知る 野枝の家今宿へ

社會主義者大杉榮氏は二月初め頃から西下の途中東海道線汽車中で警視廳の尾行巡査を撒いて久しく行衛を晦まして居たが突如として別項の通り五日夜八幡市勞友會主催の勞働演說會に來り飛入演說をして其の筋をアッと云はせたが六日午後零時二十九分博多驛着列車で下車し妻野枝の里に行くと稱して福博電車で今川橋から北筑軌道に乘替へ糸島郡今宿に行つたので福岡署から二名の高等刑事が尾行した大杉氏は八幡驛からの汽車中で列車車掌が一般旅客の檢札を始めた時に俺には巡査が尾行して居るので切符を見せると行先きが判るからと云つて氏一流の駄々を捏ねて遂に切符を見せなかつた

八幡で遣つたのが 一番長い演說

八幡市の勞働者が 一番覺醒して居る 大杉榮氏語る

八幡製鐵所罷工記念會の席に突如八幡に現れた勞働運動社の大杉榮氏は別項の通り糸島郡今宿に來て居る伊藤野枝との仲の長女に遭つて直に福岡に引歸し同夜大阪の勞働運動の爲め博多驛發列車で上阪したが氏は語る

自分は今迄演壇に立つた事は三度しかない夫れも一度は二三分で演說中止を喰ひ次は四五分で中止となつたが今度の八幡の演說は四十分間も演壇に立つて所信を述べ得たのは嬉しかつた此れが自分の半世中で一番長く演壇に立つたレコードである八幡では臨監の警官の邪魔があつたが會場内の千五百の聽衆は其大半が罷工當時の人々で此等の妨害を除いて更に角熱のある主張を完全に述べ得て同處の勞働運動としては先づ成功であつた昨年も同記念會が開かうとしたが遂に會場を邪魔されてお流れとなつたが今回は演說中止を喰ひ乍らも終局を結んだのはよかつた九州の勞働者で何といつても八幡が一番覺醒して居る關門方面の仲仕や百萬の炭坑勞働者の如きは昔の親分乾兒の關係があつて堂々たる勞働運動は出來ぬ私も昨年腸窒扶斯を病んだ當時は體重僅十四貫でしたが此の病氣に罹つてから全く健康が回復し今では十八貫の體重となり脚病も何も全く癒えて終つたから此の健康體を以て今後充分勞働運動の爲力を注ぎたいと思ふ大阪の勞働運動は普選運動とは全く別個のもので獨立した運動をしてやる考へです私達は普選運動には反對で彼等の仲間で一緒になるのは厭デス